

令和3年9月15日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
サツマイモ	ナカジロシタバ	やや少	9月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。
	イモキバガ	並	9月上旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	
秋冬ネギ	黒斑病	やや少	9月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 肥料切れしないようにする。 多発ほ場では薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	やや多	9月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌処理と併せて、即効性が期待できる薬剤の地上部処理などにより、防除する。
	ネギハモグリバエ	やや多	9月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温並 降水量並	
夏秋トマト	葉かび病	並	8月下旬発生量：並 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 施設の換気を十分に行う。 発生初期から薬剤防除する。
	アザミウマ類	少	8月下旬発生量：少(-) 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	タバココナジラミ	多	8月下旬発生量：多(+) 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> 黄化葉巻病を媒介するので、発生初期に防除を徹底する。また、黄化葉巻病発病株は必ず抜き取り、適切に処分する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
野菜・花き共通	コナガ	並	8月フェロモントラップ誘殺数 : 並 気象予報: 気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 育苗中から防除を徹底する。 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するため、発生初期に防除を行うよう心がける。 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避け、数系統でのローテーション散布を行う。
	ハスモンヨトウ	やや多	8月フェロモントラップ誘殺数 : やや少 (-) 8月下旬発生量 夏秋トマト: 多 (+) 9月上旬発生量 サツマイモ: 多 (+) 秋冬ネギ: 並 [発生なし] サトイモ: 並 気象予報: 気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に薬剤防除する。
	シロイチモジヨトウ	多	8月フェロモントラップ誘殺数 : 多 (+) 9月上旬発生量 秋冬ネギ: 多 (+) 気象予報: 気温並 降水量並	
	タバコガ類	並	8月フェロモントラップ誘殺数 オオタバコガ: 並 タバコガ: やや少 (-) 8月下旬発生量 夏秋トマト: 並 気象予報: 気温並	<ul style="list-style-type: none"> 施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。 幼虫は見つけ次第捕殺する。 薬剤防除は若齢幼虫期に行う。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	ミカンハダニ	多	8月下旬発生量：多（+） 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 秋ダニの発生に注意する。寄生葉率が20%以上の場合に薬剤防除する。
果樹共通	カメムシ類	並	8月下旬発生量 温州ミカン：並 [発生なし] 8月予察灯誘殺数 ：やや多（+） 8月フェロモントラップ誘殺数 ：並	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

トビイロウンカ

～今後、収穫まで1週間以上が見込まれる場合は注意～

トビイロウンカはウンカ類の一種で、収穫時期にイネが銀白色に枯れる症状を発生させ、収量の減少を引き起こすイネの重要害虫である。トビイロウンカは日本では越冬が不可能で、毎年海外から飛来する。収穫期にトビイロウンカが多発しイネの茎から養分を吸汁すると、イネは銀白色に枯死し、穂には実が入らず、収量が減少する。令和2年は、西日本から東海地方にかけて発生量が多く、甚大な被害が発生し、本県でも「坪枯れ」症状が確認された（写真1）。9月上旬までに収穫期となる作型では、トビイロウンカが飛来しても増殖する前に収穫期となり、坪枯れ被害を受けるリスクが小さいが、飼料米等の収穫期が遅い極晩生品種や、5月後半以降にかけて移植する作型では、増殖期間が確保されるため坪枯れ被害の発生リスクが高くなる。

令和3年は、県内の水田においてトビイロウンカの発生は確認されていないが、南房総市に設置している予察灯では、7月5日と6日にトビイロウンカの誘殺があり、過去11年で最も早い誘殺だった。また、日本植物防疫協会提供のウンカ類の飛来解析で、5月17日以降、千葉県に飛来した可能性があるため、注意が必要である。

<トビイロウンカの生態>

- 1 幼虫は2週間で成虫になる。急速に増殖し被害を発生させるので、早期発見と初期防除が重要である。他のウンカ類（セジロウンカ、ヒメトビウンカ等）は上位の葉鞘にも寄生するが、トビイロウンカは株元に寄生しているのので、株元を特に注意して観察する。トビイロウンカは、体全体が大きく、体色は脂ぎった褐色をしているので区別できる。
- 2 飛来するトビイロウンカの数はずかでも、増殖力が高いため2～3世代（1世代1か月程度）経過すると増殖、多発し坪枯れを引き起こす（写真1）。トビイロウンカには飛翔能力の高い長翅型雌と、翅が短く飛ぶことができないが産卵能力の高い短翅型雌（写真2）がいる。次世代以降、雌のほとんどが短翅型となるため、飛来定着した株元付近で急激に増殖する。

<防除上の注意事項>

- 1 収穫まで1週間以上あるほ場で坪枯れが発生し始めた場合や株元に株あたり5頭以上のトビイロウンカを確認したら、直ちに薬剤防除を実施する（表）。
- 2 寄生の多いほ場であっても、1週間以内に収穫する場合は薬剤防除を行わず早めに刈り取る。
- 3 本虫は株元に寄生しているのので、薬剤は株元にまで到達するように丁寧に散布する。



写真1 トビイロウンカによる坪枯れ
（令和2年10月15日東葛飾農業事務所撮影）



写真2 トビイロウンカ雌成虫
（左）長翅型 （右）短翅型

表 ウンカ類の主な防除薬剤

薬 剤 名・希釈倍数 ※1	IRACコード ※2	10a 当たり 散布量	使用基準 ※3
㊦スミチオン粉剤3DL 注1)	1B	3~4 kg	21/2
㊦バッサ粉剤3ODL	1A	3~4 kg	7/5
㊦トレボン粉剤DL ㊦トレボンEW 1,000倍液 ㊦トレボン乳剤 1,000~2,000倍液 ㊦トレボンMC 1,000~2,000倍液	3A	3~4 kg 60~150 ℓ 60~150 ℓ 60~150 ℓ	7/3 14/3 14/3 14/3
㊦スタークル/アルバリン顆粒水溶剤3,000倍液 ㊦スタークル/アルバリン粉剤DL ダントツ水溶剤 4,000倍液 ダントツフロアブル 5,000倍液 ダントツ粉剤DL ㊦ダントツ粉剤	4A	60~150 ℓ 3 kg 60~150 ℓ 60~150 ℓ 3~4 kg 3 kg	7/3 7/3 7/3 7/3 7/3 7/3
キラップフロアブル 1,000~2,000倍液 キラップ粉剤DL	2B	60~200 ℓ 3~4 kg	14/2 14/2

注1) ㊦スミチオン粉剤3DLの出穂前散布は1回まで。

注2) 農薬の使用にあたっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

- ※1 ㊦は稲用に登録されている農薬のうち、①登録時のデータから稲わらへの残留性が十分に低いと認められる農薬や稲わらに残留しても牛の乳汁に検出されないことが確認されている農薬、②平成15年度以降に実施したWCS用イネで残留性試験や乳汁移行試験により残留性がないと確認された農薬に表示した。
- ※2 IRACコード：殺虫・殺ダニ剤の作用の仕組みの分類を表すもので、害虫の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コード内の薬剤を重ねて使わないことが望ましい。
- ※3 使用基準の「○/○」は「収穫前使用日数/最大で使用できる回数」を示す。使用回数については、薬剤名が異なっても、同じ有効成分が含まれていることがあるため、有効成分の種類ごとの使用回数にも注意する。

(令和3年版農作物病害虫雑草防除指針 千葉県 より抜粋)

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・果樹・夏秋トマト：8月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：9月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			今年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	いもち病（穂いもち）	発病穂率（％）	0.31	0.09	0.09		
		紋枯病	発病度	2.14	2.15	3.68	
		縞葉枯病	発病株率（％）	0.23	0.53	0.34	
		ごま葉枯病	発病度	4.26	2.97	2.97	
		稲こうじ病	発病株率（％）	0.64	0.36	0.57	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.57	0.01		
		ニカメイガ	被害株率（％）	0.00	0.02	0.16	
		イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.00	0.00	0.00	
		コブノメイガ	上位2葉被害株率（％）	0.00	0.10	0.81	
		セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	—	2.84	7.29	欠調
	トビロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	—	0.00	0.00	欠調	
		ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	—	21.73	31.26	欠調
		ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	—	70.82	164.75	欠調
		コバネイナゴ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.41	0.71	1.43	
		ササキリ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	2.21	2.56	2.54	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.25	1.03	1.65		
		ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.30	0.23	0.22	
		イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.11	0.20	0.60	
		シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.04	0.03	0.05	
ミナミアオカメムシ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.01	0.02	0.07		
斑点米カメムシ類上記5種		捕獲ほ場率（％）	39.62	34.06	47.17		
アカヒゲホソミドリカスミカメ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.02	0.06	0.01		
アカスジカスミカメ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.22	0.52	1.02		
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ	100葉当たり寄生幼虫数	0.60	0.04	0.00		
		ナカジロシタバ	100葉当たり寄生幼虫数	0.00	0.96	0.00	
		イモキバガ	被害葉率（％）	4.20	8.13	3.40	
		100葉当たり寄生幼虫数	0.20	1.63	0.00		
ラッカセイ (千葉、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.01	0.00		
		褐斑病	発病度	27.25	26.73	31.80	
		黒渋病	発病度	0.15	0.52	0.00	
		白絹病	発病株率（％）	0.60	3.31	0.70	
サトイモ (印旛、香取、君津)	汚斑病	発病葉率（％）	9.73	6.60	21.20		
		アブラムシ類	成幼虫寄生程度	9.87	12.58	8.70	
		ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（％）	5.87	4.40	2.97	
		ハダニ類	雌成虫寄生程度	6.60	9.54	36.16	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	1.00	3.16	0.80		
		さび病	発病度	0.00	0.00	0.00	
		べと病	発病株率（％）	0.00	0.04	0.00	
		ネギアザミウマ	被害度	33.70	27.52	22.40	
		ハスモンヨトウ	被害株率（％）	0.00	0.40	0.40	
		シロイチモジヨトウ	被害株率（％）	0.40	0.00	0.00	
		ネギコガ	被害株率（％）	0.00	0.28	0.40	
		ネギハモグリバエ	被害度	13.80	6.67	3.70	
夏秋トマト (印旛、山武)	灰色かび病	発病株率（％）	0.80	0.00	0.00		
		発病果率（％）	0.00	0.00	0.00		
		果実発病度	0.00	0.00	0.00		
	葉かび病	発病株率（％）	3.20	1.84	5.20		
		黄化葉巻病	発病株率（％）	1.90	1.14	1.10	
		アブラムシ類	成幼虫寄生株率（％）	0.00	0.04	0.00	
	タバコガ類	幼虫寄生株率（％）	0.40	0.48	0.00		
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率（％）	8.00	4.52	6.80		
	タバココナジラミ	成虫寄生株率（％）	8.00	1.36	6.80		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（％）	0.40	0.00	0.00		
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率（％）	0.40	0.52	0.00		
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率（％）	0.00	7.20	3.20		

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	0.18	0.96	0.29	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.00	0.05	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率 (%)	2.76	2.45	6.03	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.06	0.50	0.12	
	吸ガ類	被害果率 (%)	0.00	0.09	0.50	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.11	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.12	0.14	0.40	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.17	0.08	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	4.40	0.99	0.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.62	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.43	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.02	0.00	

トラップ月間誘殺数 (8月) * 種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	21.0	17.9	8.7	頭/月
	セジロウンカ	〃	1.7	7.2	8.3	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.2	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	11.3	15.7	8.3	
	ツマグロヨコバイ	〃	142.7	598.9	591.0	
	フタオビコヤガ	〃	12.7	30.3	39.7	
	イネヨトウ	〃	4.0	6.2	9.0	
	ニカメイガ	〃	0.3	3.0	3.7	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	140.0	81.5	326.7	
	クモヘリカメムシ	〃	17.7	24.6	31.0	
	ホソハリカメムシ	〃	1.0	1.8	2.3	
	イネカメムシ	〃	95.7	36.7	81.3	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	3.7	39.4	5.0	
	アカスジカスミカメ	〃	173.0	178.1	214.0	
	ミナミアオカメムシ	〃	23.3	36.4	113.0	
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	8.3	10.7	2.7	頭/月
	クサギカメムシ	〃	12.7	8.0	0.7	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	2.0	2.3	
	アオクサカメムシ	〃	0.3	1.3	0.0	
	イチモンジカメムシ	〃	0.3	2.3	1.3	
	ホソヘリカメムシ	〃	0.0	0.2	0.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	3.0	19.6	3.7	頭/月
	オオビロウドコガネ	〃	3.0	5.0	1.3	
	ヒメコガネ	〃	1.7	6.5	20.7	
	ドウガネブイブイ	〃	4.3	4.4	5.0	
	オオクロコガネ	〃	1.7	22.9	4.0	
	アオドウガネ	〃	45.0	18.6	64.7	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	24.0	17.2	7.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	29.0	21.6	12.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	6.0	3.1	2.0	
	カメムシ類	〃	59.0	41.9	21.0	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ミナミアオカメムシ	〃	0.0	0.3	1.0	

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	1.9	1.9	3.3	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	10.9	13.9	29.2	
	コナガ	海匝	0.3	0.3	0.1	
	ハスモンヨトウ	県内全域	9.3	11.8	10.4	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	2.7	1.0	0.2	
	オオタバコガ	県内全域	2.3	2.3	1.3	
	タバコガ	県内全域	0.6	1.3	0.6	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.9	1.1	0.7	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.9	1.1	0.7	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.2	0.1	0.1	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.5	0.8	0.4	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	0.7	0.9	0.4	
	チャバネアオ	チャバネアオカメムシ	県内全域	0.6	7.9	
カメムシ	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	0.2	0.0	
集合フェロモン	クサギカメムシ	〃	0.0	0.1	0.1	
	カメムシ類	〃	0.7	8.2	8.1	
	マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)	〃	0.0	0.1	0.1	

○気象予報

9月9日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

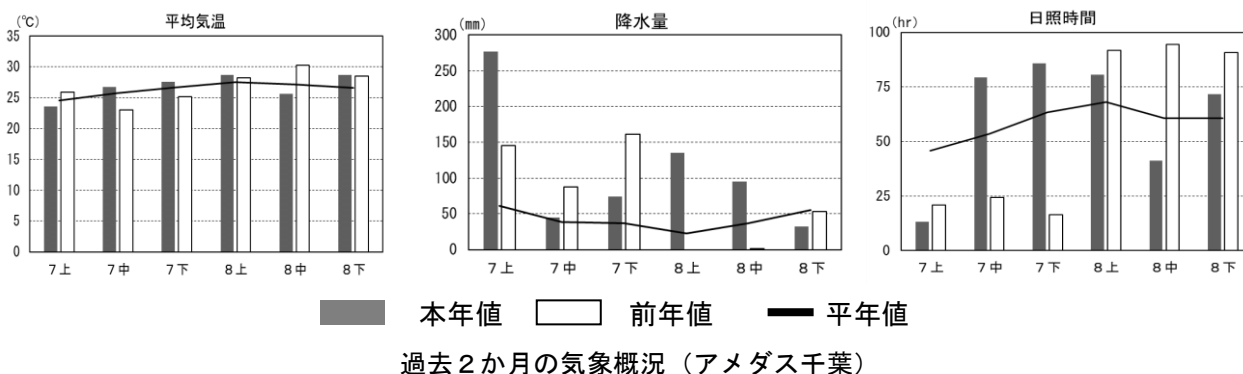
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	30	40	30
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(9月15～10月17日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	21.1	21.2	21.1
降水量(mm)	255.2	298.6	277.6
日照時間(hr)	133.8	149.8	145.8



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は10月18日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

